

会議開催記録

会議名	第4回 森町総合計画審議会
日 時	平成28年12月2日（金）14：00～
場 所	森町町民生活センター 2階集会室
出席者	町長、副町長、審議会委員16名、まちづくり検討委員1名、事務局5名 欠席委員7名（打田、前田、佐藤、熊王、秋山、井口、濱田）
議 事	1 開会 2 町長あいさつ 3 会長あいさつ 4 議事 (1) 総合計画基本構想（検討案）について【資料1】 (2) 総合計画基本計画体系検討表（案）について【資料2】 (3) その他 5 閉会
議事要旨	<p>1 開会</p> <p>2 町長あいさつ</p> <p>町 長： 12月に入り何かとお忙しい中、審議会にお集まりいただきありがとうございます。11月、先月は、森町におきまして毎週イベントが開催されまして、大変賑やかな1カ月となりました。好天にも恵まれ、どのイベントにも大勢の方にお出掛けいただき、また楽しんでいただけたのではないかと思います。それから、ふるさと納税についてですが、9月のリニューアルスタートより3カ月が経過しましたが、これまでに696件、1,740万6千円のご寄付をいただいております。この返礼品としてスタート当初から治郎柿が大変人気を得て、追加分も次々に完売御礼となりました。この12月からは、新たに来年のとうもろこしの予約を承っております。ふるさと納税の応募はこの12月が一番多いようですので、また更に、多くの方に町のホームページを見て、特産品を知っていただき、ふるさと納税にも応募いただきたいと思います。また、明日には第17回しずおか市町対抗駅伝大会が開かれます。森町チームは昨年4位でしたが、今年も更に順位を伸ばせますよう、皆さんからも応援をお願いします。</p> <p>本日は大変暖かくなりましたが、気候の変動の激しい時ですので是非健康に留意していただけたらと思います。いよいよ、第9次総合計画策定につきましても、年度末に向けて急ピッチで作業を進めているところです。庁内では全課長で構成される策定委員会を本日までに6回開催し、関係各位の皆様からいただいたご意見・ご要望について、全てではありませんが、可能な範囲内で第9次総合計画の中に反映させるべく検討作業を進めているところです。本日、今日までに検討してきました基本構想および基本計画の案につきまして、委員の皆様からのご意見をいただきたいと思います。残された時間も少なくなっておりましたが、是非、十分な、また集中したご討論を頂けたらと思います。この審議会は、総合計画策定にあたっての私からの諮問機関として位置づけられています。引き続き、それぞれのお立場から忌憚のないご意見をお願いしたいと思います。本日もよろしくお願いいたします。</p>

3 会長あいさつ

会 長： 今朝は大変冷たい風がありましたが、日中は大変暖かくなりました。大変お忙しいなか、第4回の審議会にお集まりいただきありがとうございます。いろいろ、ご都合で欠席の方もありますが、それだけ発言のチャンスも多いものと思います。忌憚のないご意見をどしどし発表いただきたい。そしてこの審議会の主たる部分をどんどん進めていただきたく、ご協力をよろしくお願いします。

4 議事

(1) 総合計画基本構想（検討案）について

・資料1について事務局より説明

(審議)

会 長： 特にまちの将来像や目標、基本の柱について、ご意見・ご質問があればお受けしたいと思います。いかがでしょうか。

委 員： 人口の将来見通しの関係で、4頁に対して、5頁の説明があるが、両方セットにして計画書に入れ込むことになるのでしょうか。4頁のみでは分かりにくく、一方人口ビジョンの内容も5頁のみでも分かり難い。人口置換水準（出生率2.07）だとか、年号が和暦と西暦が混在したり、社会増減の均衡という言い方も、これまで100人減少（転出）してきたので、100人増加（転入）にして戻していくように説明された方がわかりやすいのではないのでしょうか。出生率2.07というのは2030年時点の目標なのであって、2025年（平成37年）では、1.87を目指しているというところなどもあるでしょう。一番元になるのは2060年の値であってそこから戻してくるものだということでしょうが、総合計画の目標年次（2025（平成37年））では、それぞれいくつになるのか、17,000人にするために、というところをもう少し書き加えた方がいいのではないのでしょうか。

16頁の将来像ですが、「森」と書いて「もりまち」と読むようにしており、人口ビジョンでもそうなっていますが、何故このように読ませるのですか。

18頁の基本の柱1の施策の基本方向に「子育て・子育て」という語がありますが、特に子育てしやすい、というのは一般的な言葉としてあるのかどうか、気になります。

事務局： 将来人口の説明については、ご指摘のとおり、見やすくなるように工夫していきます。

「森」を「もりまち」と読むところは、昨年度策定した「総合戦略」の検討段階（有識者会議）での議論の結果となっています。まち全体をあらわすイメージとしては、漢字で“森”とするのがいいという意見と、読んだ時には「もりまち」まで言う方がいいという意見など双方を取り入れたようなものになっています。

「子育て」という語ですが、現在ではこういった言い方も出てきているということで、子ども自らが育っていくこと、あるいは地域社会のなかで成長していくこと、などの意味合いでとらえて頂ければと思います。

委 員： 了解しましたが、将来人口の出し方として「17,000人」と書くだけでは、ただ現在より減ってしまうだけにしか見えません。実は更にもっと減るところを、行政として17,000人

までがんばる、食い止めるのだという書きぶりを4頁に入れたらどうでしょうか。今後 10 年で出生率 1.87 まで上げるとか社会動態としての転入増を図るとかの努力の部分を明記すべきではないでしょうか。

事務局： ご意見のとおり対応を検討します。注釈などで補記していくこともできるかと思います。

委員： 16 頁（まちの将来像）の説明文中に、「豊かな森林と清流を有する・・・」とありますが、豊かな森林ということをご自分なりに解釈しますと、面積として大部分を占めることだと思われそうですが、町自身で管理できる範囲というのは（約 9,000ha のうち）100ha 程度というのが現実でして、内容的にこれでいいのかという思いです。現在も、手入れの遅れた山がまだ沢山残っています。むしろ、「豊かな森林と清流をつくるために・・・」のような表現が必要ではないでしょうか。このままだと、現状が「豊か」であるというように町民の方が認識してしまうと思います。

会長： 事務局どうですか。表現の仕方ということになると思いますが。

事務局： ご指摘頂いた、現状と課題認識をふまえて、文面について検討させていただきます。

委員： 付け加えてご報告をさせていただきますが、この 11 月に国際森林認証の最終審査に通りまして、来年 2 月に認証が下りる予定となりました。

委員： 皆さん、今の資料を読んでまちの将来像が浮かぶのならいいのですが、やはり難しいのではないのかな、というのが第一印象です。私自身、いろいろ文書として拝見していますので、町長の訴えたいことは大体分かっているつもりですが、それが、言葉として表れていない気がします。まず、町の将来像では、森町らしさのイメージを、できたらしっかり出して欲しいというのを感じています。

この、「住む人も訪れる人も心とらぐ森（もりまち）」という、多分、町長がこのフレーズそのものを今描かれていると思いますが、このイメージというのは、「人の輪」の部分で、外部から情報や、色々な外部のパワー、活力といったものを持って来ますよ、ということを感じます。一方では「対話」の部分で、町長がインタビューなどで答えられています、対話が多いことで健康寿命なんかも森町の皆さんは延びているという、内側に対してもきちんと見ていますよ、という面がここに表れていると思います。それともう一つ加えたいのは、この中で、ストーリーを皆さんで色んなものの価値をつくっていく、まちづくりを町民総出でやっていく、という部分がこの「対話」の中には含まれていると思います。それと、それを大きく包み込んでいく、確かに深い森林かもしれませんが、私から見ると精霊の宿るような森林、そのようなイメージの中で、住む人も訪れる人も心とらぐ森（もりまち）をつくろうと思っている、そういったイメージをどこまで書けるかは別ですが。少なくとも作っている人がある程度は森町の町長が求めているイメージ、言葉で出すと却って駄目な時もありますが、イメージというものを持っていってもらいたいと思います。基本的には、住む人も訪れる人も心とらぐ森（もりまち）というのは、森を訪れたりしたときに、我々の平凡な日常生活、森町に行って帰ってきた次の月曜日に、平凡な日常生活の少

しだけ「きらっ」と光るような、それだけのパワーを与えてもらったんだ、というような力があるのが森町だというような、それが精霊の森かもしれないし、森町全体のやさしさかもしれない。何か町長と話している時には、そのように感じました。そういう所をもっと出してあげられれば、「森町らしさ」が出てくるのではないのでしょうか。

そして、将来像を考える時にものすごく大事なことは、お金をやたらに掛けたりだとか、ハコモノをつくったりするというのは、もはや大きな都市であっても出来ないことなので、その中で如何に、色々な事象に対して、ストーリーを付けて、価値を高めて皆さんに発信していく、というのが大事なので、その辺を含めて、もっと町長の思いというものを書き手が出していてもらいたいと思います。そうでないと、新しい町長がつくった総合計画という部分が出ないのではないのでしょうか。

次の第2章まちづくりの基本目標ですが、ここで一番大事なのは、この達成のための手段が何かということ。一つは、森町の行政と町民だけではできないので、企業とか総出で、協働でやりましょう、ということで、他の市町でこれを言われても「どうなのかな」と感じますが、この中東遠、特に森町というのは、そういうことを絵空事でなく基本「できる」所だと思います。協働という部分も、森町の土壌に合っているという認識で政策手段として出しているのだと。それから森町だけでは全てがフルセットで揃うわけではないので、公な連携も含めてやっていくこともおっしゃられたと思います。そういったものとプラスアルファ、あと一つくらいほしいなと思います。それが通常ですと、例えば浜松で話していた際には、「直虎」の風が吹いているから利用すべきとか、磐田ならスポーツ。丁度、水谷準や伊藤美誠が出てきた。森町の、その新しい風は何なのか、その風を起こすのは、町役場なのか、町民なのか、色々あると思いますが、何かそのような現実性がある中から手段として書けるもの、協働と広域連携に加えて、まちづくり基本目標の背景に欲しいかなと思います。どこまで書くのかはお任せいたしますが、一つ一つ考えていくと何か違いが出てくると思います。その辺も出していただきたいなと思います。

それから、基本の柱の6本、これも着眼点を背景にみる、あるいはその部分を説明してもらえないと伝わってきません。例えば、1.保健・医療・福祉、子育てと子育てしやすいまちをつくるなかで一番大事なことは、制度論争で新しい制度を創設してお金をジャブジャブ掛けましょう何てことは何処も出来ません。その様なことで東京から人が来るわけではありません。けれど、森町なら、先ほどの対話の話のように、寄り添った支援ができるのが森町なのではないのでしょうか。そのようなイメージを背景としてもってここを書いていかないと、何処でも言っていること以外のイメージが沸かないと思います。本当はやっていることはあるのだと思いますが、そのやっているところを紹介してもらいたい。それと、お達者度というのは非常に大事なところで、今後も日本全国で医療費を如何に削減するかというなか、森町はそれが出来ているところかもしれない。そうしたら、そのお達者度に磨きをかける暮らしぶりとか、やり方というのを背景に持ったうえでこの文章を書いてもらいたい。そういった着眼点を出してもらいたいと思います。

2. 教育・文化のところでは、先ほども言った、文化などは特にそうですが、価値を如何に対話のなかでストーリーを付けて重みを出していくか。そういうものが背景にあると言われれば、それも森町らしさだなと。元々町長のおっしゃる対話の事と結びついて、色々な価値を出していく、そういうように思えますので、ストーリーづくり、価値づくりといったものを念頭に置いて、文化、価値といったものを語り合ったり、支えあったり、伝えあったり

していってもら、という所が出てくるといいかと思います。教育というのも、また違った形で寄り添ったものが出ると思います。

3. 活力・情報発信といったときに、森女の活躍とかすごく新聞にも出ています。若い女性のレポーターによる、そういった手段を念頭に置きながら考えてみたり、誰に対してどういう手段を用いてやるのか調整したうえで、YouTube でそれを出していくとか、そういったものを念頭に、如何にお金をかけずに効果的にやっていくのかを言って頂きたいと思います。

4. 産業振興は、いずれも簡単に振興できるものではないので、そこも色々な専門家が集まって、寄り添った支援をできるような仕組みが大事で、誰もが優秀なコンサルタントに安い費用で聞きたがるもの。色々自分が悩んでいることが、例えばE Rのように、そこに相談に行くとの確な医療機関へ案内してもらえらる仕組みがありますが、同じように産業振興で大事なものは、そのところで先に聞き取ってくれて、筋道をたててくれるコンサルタント（指導できる人）、そういうものを町と商工会、あるいは県にも制度がありますので、そこら辺を活用しながら如何にやっていくかが重要ですよというような形。

それから、5. 安心・安全ですが、森町は安心なんです。津波に対しては静岡県も種々やっていますが、内陸部は「フロンティア（内陸フロンティアを拓く取組）」があるし、申し訳ないですが津波の心配は無い内陸としての安心性の高さというものを打ち出してもらいたい。これを背景に、更に地域の繋がりとして、自主防災のような面も優れているということも背景に置きながら、他のように、巨大な防御壁をつくらなければ駄目だ、というところではありませので。そういったものは出してもらいたい。

6. 自然環境のところ、ある意味森町の真骨頂の部分であって、ここに、平凡な日常生活を「きらっ」とさせて、皆さんに活力を与えらる、そういう自然環境の豊かな森があるとうのを背景に置きながら書いていってもらいたい。自分が作るとしたらこのようなイメージを含めたいということで、全て書いてくださいというのではありませんが、役場の方が町長や副町長の話、イメージを聞きながら、どうそこへ結びつけて、今度の森町（町長）は違うな、というところを出して行って頂きたい。それができれば町全体がPRできる形にもなります。

会 長： 少しでも中に取り入れらる部分があれば、ということでご助言頂きました。事務局・町長でよく話し合って頂ければと思います。他にありませんか。

委 員： 各基本の柱の説明部分が弱いのかなと感じました。例えば産業振興のところ、8次計画の評価としては90%近く達成のようですが、現状どうかというと本当にそうなのかなとも思われます。もう少し具体的にというとな難しいのかもしれませんが「こうこうこうします」というような何か見た人がやる気を感じらるような、強く打ち出せるものがあるとうれしいと思います。

委 員： 森町の特徴として、小京都という表現だけでは、町の何処がそうなの、漠然としていると思います。強みと弱みのところでも、森町のところが出ていないと言いますか。それから、人口についても2060年まで出されても漠然としてしまいます。それなら、2025年までには何をしていったらいいのか。（出生率）1.48などを書いてあるのですが、3年間で100

人流出したというのが、どういう理由で出ているのかといった情報も入れて頂いて、こういう数字になると書いてあれば分かると思うのですが。10 年間のなかの5年間というような短期、中期の目標設定などがあれば私には分かりやすいと思いました。

会 長： （事務局へ）先ほどの人口動向の説明について、少々詳しくお願いします。

事務局： 人口動向ですが、現状は200人/年の減少で、5年で大体1,000人、10年では2,000人減少する計算です。この200人/年の減少分のうち100人が自然減少（死亡）、100人が社会減少（転出）となっています。この現状に対し、まず出生率の方を10年後に1.87、今より0.4ポイント上昇させることを目指しています。実際この上昇の実現は厳しいものがありますが、子育て施策の更なる充実が必要です。次に社会減少に対しては、企業誘致や住宅地の整備をふまえることで、10年後に少しでも均衡に持っていく必要があり、これらの両面の取り組みによって少しでも人口の減少幅を抑えるということを考えています。

会 長： 今、ご説明頂いた件を、もう少し計画書にも網羅してもらいたいと思います。

事務局： ご意見ふまえて、4～5頁の内容（説明）を分かりやすくしたいと思います。

（2）総合計画基本計画体系検討表（案）について

・資料2について事務局より説明

（審議）

会 長： 只今のご説明につきまして、特に節や施策の方向、主な事業等について、ご意見、ご質問があればお願いします。

委 員： 柱の2、（2）－②の主な事業で、旧周智高校跡地活用とありますが、何故この施策の方向（スポーツの振興）になっているのでしょうか

柱の3、（1）－①の主な事業で、景観条例検討とありますが、対象地区などの想定があるのででしょうか。

柱の5、（1）－②の主な事業で、防犯灯の設置とありますが、現状に加えて増設ということになるのでしょうか。

柱の5、（1）－④の主な事業で、公園・緑地の充実とありますが、実際どのように整備するのででしょうか。

柱の6、（1）－③の主な事業で、太田川と親しむ空間創出とありますが、実際どのような構想内容なのでしょうか。

柱の4、（1）－②の主な事業で、森林認証取得と地域材のブランド化等とありますが、森林認証取得については、今度の2月に取得予定という案内がこの場でありましたので、今の表現は変えなくともいいのでしょうか。

事務局： 資料2の内容につきまして、現状、関係各課で内容を検討している段階ですので、本日以降も、変更されていく可能性があることを補足します。

ご質問の、先ず、旧周智高校跡地活用の件ですが、現在、体育館（森アリーナ）が入っており、所管の関係から本項目での事業ということになっています。今後、跡地全体がスポーツ関連施設になるのではなく、色んな利活用が考えられますので、これで確定ではないということです。

景観条例の検討については、現在の第8次計画にも位置付けられていますが、達成度評価が低く、引き続き第9次計画においても検討していく必要があると判断されたものです。遠州小京都基本構想との関係もありますので、その内容を踏まえた検討ということになると思います。

防犯灯の設置については、LED化であったり、地域からの設置要望に応じて町から補助しているという形です。

公園・緑地の充実については、各地区からもご意見として頂いており、今ある公園の整備・充実であったり、広域的見地から設置が望ましい所を指定したり、そうした視点を全て踏まえた中で、町民の満足度が上がっていくような形を考えていくものです。

太田川と親しむ空間創出については、現在の第8次計画にも位置付けられていますが、策定当時はダム湖周辺の整備推進ということでしたが、その後、まちなかにも親水公園ができたりしており、先ほどの公園・緑地の充実との重複も出てくると考えられますが、公園や遊歩道、子どもが水遊びできるような場所といったものの充実が考えられます。

森林認証取得にかかる表現については、その後の状況変化にも対応できるよう、計画策定期間の来年3月末の状況に応じて見直したいと思います。

委員： 先ほど、松下委員からもご意見がありましたように、この内容は町民もご覧になるものですので、わかりやすく、イメージが湧いてくるもの、そのような表現で記載されるようお願いします。

事務局： 10年間の計画事項をどう表現していくか、予算の裏付けが必要になってくるものもありますし、10年間の構想という書き方が必要になるものもあると思います。そこら辺は慎重に、関係各課とも協議しながら、少しでも町民の方にわかりやすい表現に見直していきたいと思います。

委員： 第8次計画で達成できなかった内容が、大分、第9次にも出てきているように見受けまます。（福祉施設の整理、弱者の交通手段など）これらの事業を「本当に進められるのか」のように思われてしまうのではないのでしょうか。一歩でも半歩でも前へ進めていくような対策をとって頂きたいと思います。

事務局： 追加資料として第8次計画の評価をお示しし、その中で今後の方向性についても整理しています。

委員： 森町が静岡県内で「お達者度」2位というのがありましたが、これは「たまたま」なのではという印象があります。今後10年間でこのお達者度を上げていくというだけではなく、もっと短期に達成できるもの、できないものがあると思います。これらを区別していった方がもう少し分かりやすくなると思いました。

会 長： それについては、検討してもらおうということでよろしいですか。他に何か。

委 員： 柱の3、(1)－①の主な事業の中に、空家等対策計画策定とありますが、空家とともに「空地」もやるのかどうか。もし検討できるのなら、一緒にやってもらった方がいいかと思いました。

会 長： 事務局、よろしいでしょうか。

事務局： 空家を取り壊されて、そのまま空き地となっている所、雑草が生い茂ったり、生活環境上も問題の出ている所もありますので、そういった所の視野も含めて、特定空家といった言葉も出てきていますので、空地もふまえた対策計画ということで検討していきたいと思います。

委 員： 体系全体のところですが、基本の柱があって次に(節)となっていますね。イメージ的には、柱が来た後のところは、その後の完成のイメージだとか、姿みたいなものになるのではと。それで、()で始まる言葉の語尾で、「～をつくる」という表現は要らないのではないのでしょうか。

柱の3、(1)「森町らしさ」とありますが、らしさとは何か、答えられる状況で書くのならいいですが、はっきりさせないまま、ここにだけ「森町らしさ」と使ってしまうと、今(節)としている項目全体が何だかよく分からなくなってしまうでしょう。どれにも当てはまる言葉です。こうした大きい言葉を使う時は注意が必要だと思います。それから、(施策の方向性)にも凹凸があると言いますか。例えば柱の4を見たときに、(1)に内容は産業の振興といった形でそろっているものが、(2)－①の観光のところだけは、もう少し前振があったり、もし此处を方向として書くなら、そういう姿勢というのは施策のところでもってもらいたいと思います。それから、主な事業のところで見せて頂きたいと思うのは、主要な事業もさることながら、新しいことをやろうする内容(事業)、そこをゴシックで太く表すなど強調して頂くといいかと思います。

途中に出てきていますが「遠州の小京都」、森町が勝手につくった言葉ではありませんし、森町は由緒正しき「小京都」ですので、もっとくどいくらいに(ルビで強調するなど)使っていい言葉と思います。そういう所が結構大事ですので、ぜひお願いしたいと思います。

会 長： 事務局の方で、ひとつよろしくお願いします。

委 員： 全体的に(文字ばかりで)分かりにくいので、図示できるものは掲載をお願いしたいと思います。特に「小京都のまちづくり」はどの辺を指すのでしょうか。あまり具体的なものは描けないことも理解しますが。例えば田んぼはこのまま耕作していくでしょうが、インター周辺の利用であるとか、この感じでは出てこないのか、大まかな形でも図があって、その上にこの施策はこの辺、この辺というものがあると見やすいかなと思いました。

会 長： 要するに活字ばかりではなくて、絵も入れたらどうかというご意見でしょうか。よろし

いですか事務局。そのようなご意見もふまえていただくということで。他にございませんか。

委員： 個人的に年 200 回位、体操の講座を開いていますが、そこで思うのは、この体系に「お達者」で暮せるまちをつくとあるのですが、多分、対象はかなり高齢者寄りなのだと思いますが、その予備軍が相当いらっしゃると思います。要は 40 代ぐらいからはじめてもらうようなイメージで考えていくべきだと思います。現在の高齢者だけではなく、後 20 年先に「高齢者」となる方々を見ていくようなことが入ってくれば、森町らしさというものに繋がっていくのではないのでしょうか。

委員： お金があまりかからずに、そのような体操、あるいは町には歌もありますので、それらと合わせていくとか、お金を掛けずに如何に健康になってもらうかという意味で、ソフトとできる新しい内容であれば素晴らしいと思います。

委員： 以前、町から「かわせみ体操」という DVD が全戸配布されましたが、もっと活用されるべきでしょう。

委員： その点は、今やっていますので。

会長： そろそろよろしいでしょうか。まだ発言のない委員がいらっしゃったらお願いします。

委員： 今の体系でいう、最後の主な事業が一番大事だと思います。ここに検討や促進、振興というような語尾で終わるものがあってはいけないので、具体的な事業名を落とし込んで、実効性を持ったものにして頂き、町民にもわかりやすく伝えてもらいたいと思います。

会長： 最後に私からもお願いします。第 9 次計画は、全職員の参加による策定とうたっていますが、今後の人口問題に対応について、職員としても考えなくていけないというなか、南へ出ていく方も多いと聞きます。その理由についてぜひ聞いてもらって、そこから、その対応策についても、計画に反映できるような形でお願いしたいと思います。

（３）その他

- ・事務局より報告事項
- ・オブザーバーより資料の事前送付の依頼
- ・担当課長より会議総括
- ・次回日程については 12 月末から来年 1 月中旬の期間で各委員のご都合で調整

5 閉会

以上